

# 変わりがトカラ情報

一隅を照らす十島の教育

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号  
TEL 099-227-9771

## 四月…ほんものの優しさ

十島村教育長 原口 英典

4月2日、転入教職員宣誓式・壮行会を終え、23時、その先生方やご家族の方々とともに、その先生方の関係者・県教委・教育事務所の方々の見送りのもと、「フェリーとしま」にて、十島村の各学校に向け出発した。



そこには、学びの場を十島村に選んだ山海留学生や転入生も乗っている。4月5日には、前日欠航した「フェリーとしま」において、一人の先生を見送った。見送られる先生方や家族の目に

あふれる涙。見送る人たちの、声をかぎりの校歌やエール。惜別の情のこもった五色の紙テープ。いよいよ船出を告げる長い汽笛。それぞれに新たな決意が刻まれる瞬間だ。

迎える各島々では、子ども等や先生方・島民の方々の熱い思いが、降り立った先生方や家族の胸に響いてくる。島の子供らが待っていた先生方であり、山海留学生や転入生だ。

ところで、この4月、諏訪之瀬島分校の中学生が、「本当の優しさ」という一文を地元新聞に寄せている。「宿題をあまり出さない先生が、優しい先生」と思っていた彼が、「わざわざ自分のために宿題を作ってくれている先生」の存在に思いが向いた時、にせものの優しい先生ではなく、ほんものの優しい先生をそこに見出したというのである。

おそらく、その先生は、単に出来合いのプリントや問題集の何ページの何番を、という愛情乏しい宿題ではなく、その子との一対一の真剣勝負の授業をとおして、授業で彼が躓いたところとの関連で、自宅であれこれ試行錯誤しながら、彼だけのために手作りした宿題プリントを用意し、手渡したのであろう。

生徒も真剣なら、先生も真剣。学力を身に付けたい、身に付けさせたいという思いが重なった時、ともに尊敬する存在として、ほんものの優しさに気づき、ほんものの優しさを日常化していったのだ。

十島のすべての学校に勤める、ほんものの先生方と学びを求めてやまない子どもたち。魂と魂が、トカラの学び舎に響き合い、鍛え、鍛えられの確かな関係を今年も根付かせてほしい。

囃りをこぼさじと抱く大樹かな (汀子)

## 【平成26年度転入教職員壮行会】

4月2日(水)午後8時30分、十島村役場4階大会議室で転入教職員壮行会が開催された。肥後村長、六笠教育事務所長、原口教育長の激励の言葉に、代表で中之島中学校の宮村教頭が「島の住人としてたくさんのことを吸収したい。」とあいさつした。

港には県教委や教育事務所、前所長もかけつけ、大勢の人々の涙と期待を背に、夜11時フェリーとしまは出航した。



転入教職員	小学校	中学校	合計
口之島小中学校	3人	3人	6人
中之島小中学校	3人	1人	4人
平島小中学校	3人	3人	6人
平島小中学校 諏訪之瀬島分校	4人	3人	7人
悪石島小中学校	1人	1人	2人
宝島小中学校 小宝島分校	3人	2人	5人
宝島小中学校	2人	0人	2人
合計	19人	13人	32人

十島村教育委員会に、安樂正一専門員の後任として、福屋正幸事務主幹、宮永征尚事務嘱託員の後任として、上蘭良二事務嘱託員が転入しました。前任者同様よろしくお願いいたします。



## シリーズ——十島の学校にやってきて

平島中学校1年 大関 蓮

ぼくは、埼玉県の川口市から妹と山海留学に来ました。2年生の時に1年間平島にいて、いったん川口市に帰りました。6年生の冬休みに再び平島に遊びに来て、友だちと楽しく過ごしたことが忘れられず、今年の1月から平島でまた山海留学生となりました。

山海留学に来て一番楽しかったことは、休日に友だちと遊んだことです。3月までは中学生のお兄さんたちと一緒にバスケットボールやサッカー、ドッジボールを楽しみました。

平島に来てできるようになったことは、野菜を食べ

られるようになったことです。平島の給食は、おいしいので無理なく食べられるようになりました。里親さんは、おいしいご飯を作ってくれたり、釣りに連れていってくれたりします。ミズイカが釣れた時は、すごうれしかったです。今年は、中学生が僕一人ですが、職場体験学習や部活動が楽しみです。平島小中学校をしっかりとめられるリーダーになれるように頑張りたいです。



わたしは、6月から口之島小学校の2年生になりました。やるきまんまんでフェリーとしまにのってやってきました。口之島について2日目に、いっしょにきていたお母さんがかご島に帰っていきました。島へ来ることは自分で決めたのにさみしくてなみだがコップ千ばいくらい出ました。それから、毎日があつという間に過ぎていきました。口之島の生活になれて、たくさんの思い出ができました。口之島での一番の思い出は、一学期の水泳の授業や夏休みに海で泳いだことです。わたしは今まで海で泳いだことがありませんでした。水えいはながてで

## 口之島小2年 西湖萌(平成25年度10か月在籍)

わたしは、6月から口之島小学校の2年生になりました。やるきまんまんでフェリーとしまにのってやってきました。口之島について2日目に、いっしょにきていたお母さんがかご島に帰っていきました。島へ来ることは自分で決めたのにさみしくてなみだがコップ千ばいくらい出ました。それから、毎日があつという間に過ぎていきました。口之島の生活になれて、たくさんの思い出ができました。口之島での一番の思い出は、一学期の水泳の授業や夏休みに海で泳いだことです。わたしは今まで海で泳いだことがありませんでした。水えいはながてで



どうめいな海でビー玉探しをしたり、力をぬいてうかんでみたりしているうちに、水がこわくなくなりました。海ではいろいろなお魚と泳ぐことができます。(次号へ続く)

## 村内小中学校入学式挙行

平成26年度入学式が村内各小中学校で4月7日(月)に行われました。新たな小学生、中学生の誕生です。

小学校		中学校	
中之島小学校	3名	口之島中学校	1名
諏訪之瀬島分校	2名	中之島中学校	3名
小宝島分校	1名	平島中学校	1名
宝島小学校	1名	諏訪之瀬島分校	2名
		小宝島分校	2名



## シリーズ——山海留学生として学ぶ 小宝島での8年間

(南日本新聞2014.3.20 ひろば欄掲載)  
小宝島分校中学校3年 早川 千徳子

私は小学2年生の時に、山海留学生として小宝島に来た。岐阜では見られない海の青さや、里親さん、島民の方々の温かさにひかれて、この島に住みたいと思った。

あれから8年がたった。岐阜で暮らした日々よりも小宝島で過ごした日々の方が長くなった。そして、中学3年となり、3月には島を去らなければならない。だから、私はこの1年を充実した年になるよう心がけ、さまざまな行事に積極的に取り組んだ。

中でも持久走大会は忘れられない行事となった。私は

走るのが苦手で、今年の練習も初めは嫌々取り組んでいた。しかし、最後の大会と思い、少しでも去年の自分に勝ち、思い出に残る大会にしようと決意した。放課後も先生と走る練習をした。

よい結果がでることを信じて走り始めた。諦めそうになったが、島民の方々の温かい声援に励まされ、無事に



ゴールすることができた。よい結果を出すことはできなかったが、8年間で一番思い出に残る大会となった。私は小宝島で数えきれないほどの思い出をつくることができた。それは

小宝島でしか味わうことのできなかったものだと思う。そして優しい里親さん、いつも見守ってくださる島民の方々のかけがえのない友だちに出会うことができた。この島に来ることができて本当によかったと、心から思っている。私は、小宝島が大好きだ。

## 十島村の小・中学校からのメッセージ ⑦

中之島中学校 教諭 竹内 慶司

自身が奄美出身ということもあり、異動の時期が来るたびに離島を希望してきましたがなかなか叶わず、2年前単身での異動を決意し、40歳を超えてやっと念願の離島勤務が叶いました。これまで自分で料理や洗濯などほとんどしたことがなく、不安を持ちながらの赴任でしたが、地域や保護者の方々、同僚の先生方のご支援・ご協力により充実した毎日を送っています。

中之島で一番勉強になっていることは、やはり小学生の授業を経験させてもらっていることです。小学校の先生方のきめ細やかな指導を毎日の学校生活で見て、授業をさせて頂く中で、自分自身の指導も少しずつ変わっていくのがわかります。また、小学校の子どもたちが、どのように考え、どのような学びをしてくるのかも見るのができ、今後の他校での指導にも活かすことができるのではと思います。

中之島での生活は、カルチャーショックの連続です。特にトビウオの時期の夜の港での様子(トビウオすくいや磯マクロ・GTフィッシング)、十五夜の夜(十五夜踊り・綱引きなど)の幻想的な雰囲気は、一生忘れることのできない風景になるのではと感じます。

## 教職員であるあなたへのメッセージ

十島村は、おそらく多くの人たちにとっては未知の地域であり、不安も大きいのではと思います。しかし、すばらしい自然の中で、純粋な子どもたちと親切的な地域の方々に囲まれて教育活動に邁進できる環境は、他では味わうことのできない貴重な経験を与えてくれます。学校外での生活も、十島村ならではのものです。教員として自分を見つめ直すのにも、最適な所だと思います。

